

松島・八代航路あり方検討会

平成25年3月25日
松島・八代航路あり方検討会事務局

松島・八代間航路のベストプラクティス策定①

松島・八代間航路の現状

松島・八代間航路（以下「本航路」という。）は、熊本県上天草市に所在する「合津港」と熊本県八代港に所在する「八代港」を結ぶ定期旅客航路であり、八代方面と天草方面を結ぶ唯一の海上交通として、通勤・通学・通院・観光等の用途で利用されており、生活航路及び観光航路として市民生活を支える重要な航路となっている。

同航路には昭和40年から松島フェリー株式会社（以下「松島フェリー」という。）が、平成5年には天草フェリーライン有限会社（以下「天草フェリーライン」という。）が同航路に参入し、2社において運航を行っていたところ。

- 道路交通網の整備により船舶の利用客がマイカーや観光バスの利用にシフトしてきたこと。
- 近年の原油価格の高騰による燃料費の値上がり

航路事業者：「松島フェリー」H23.11休止、「天草フェリーライン」H19.11～H21.3運休/H25.4休止

航路廃止による影響

- ① 学生の通学手段が消滅⇒教育面（子育て）で不利⇒転出による過疎化の進行
- ② ビジネスマンの交通手段が消滅⇒商取引活性化の阻害⇒経済活性化の阻害
- ③ 九州新幹線を利用した観光客の交通手段が消滅⇒観光ルートが減少⇒観光振興の阻害
- ④ 市民の交通手段が消滅⇒熊本県南地域との交流に影響⇒地域間交流の衰退

エリア
の疲弊

松島・八代間航路シュミレーションの実施（航路の必要性・航路の継続性を検証）

運航内容の検討

- 適正な運航形態
 - 運航に係るコスト
 - 利用者のニーズ
- 採算性

AND

運航主体の検討

- 上天草市直営による運航
- 上天草市からの補助運航
- 民間事業者による運航

ベストプラクティスを策定

松島・八代間航路のベストプラクティス策定②

航路廃止による影響

負のスパイラル

松島・八代間航路廃止による想定される影響

- ① 学生の通学手段が消滅⇒教育面（子育て）の不利⇒転出による過疎化の進行
- ② ビジネスマンの交通手段が消滅⇒商取引活性化の阻害⇒経済活性化の阻害
- ③ 九州新幹線を利用した観光客の交通手段が消滅⇒観光ルートが減少⇒観光振興の阻害
- ④ 市民の交通手段が消滅⇒熊本県南地域の交流に影響⇒地域間交流の衰退

公共インフラがなくなる → 経済活動等の衰退 → 地域の疲弊

航路に関する検討

上天草市・八代市連携し両地域の活性化

航路を運航する際の
ベストプラクティスを検討

松島・八代間航路の運行

エリアの自立再生

- 通学手段の確保⇒教育面の充実⇒定住促進
- ビジネスマンの交通手段の確保⇒商取引活性化⇒地域経済・産業活性化
- 九州新幹線からの潜在的な観光ルートの確保⇒観光の振興⇒地域経済・産業活性化
- 市民の交通手段の確保⇒熊本県南地域との交流促進⇒地域間交流に人・物の交流による充実

海上交通の拠点（松島地区）の活性化 → 市全体の活性化

ベストプラクティス（ビジネスモデル）の設計

現在の運航状況

【有限会社 天草フェリーライン概要】

- ▶ 旅客船の定員規模 147人（132t）
- ▶ 運賃 800円
 - ※ 車両運賃3,000円（5m未満）
 - 6,500円（12m未満）
- ▶ 週の便数 毎週（1日往復5便）
- ▶ 運航時間帯 6：50～18：50
- ▶ 利用者 右表のとおり

年度	輸送人員	備考
H20	40,998	H19.11から1社体制
H21	33,808	H21.4より2社体制
H22	35,661	2社体制
H23	28,760	H23.12から1社体制

経営維持不可
↓
平成25年4月から運休

シュミレーションの検証項目

運航面

- ① 旅客船の定員規模、② 運賃、③ 週便、④ 運航時間帯、⑤ 運航ルート（上天草市各港から八代港） 等

運用面

- ① 利用客のニーズ、② 利用促進策（周知方法） 等

収支バランスの検討

エリアの
自立再生促進

事業者による
松島・八代航路の運航

ベストプラクティス
（ビジネスモデル）の確立

